

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東京応化工業(株)相模事業所新C-1棟	階数	地上5F
建設地	高座郡寒川町田端1590-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年10月9日
敷地面積	2,331 m ²	作成者	鹿島建設(株)横浜支店 一級建築士事務所
建築面積	1,429 m ²	確認日	2017年10月10日
延床面積	5,779 m ²	確認者	鹿島建設(株)横浜支店 一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

① 参照値: 46 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 97%

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 97%

④ 上記+オフサイト手法: 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 新C-1棟は危険物一般製造所に該当する。既存の実験室機能を集約するだけでなく、新規製品の試作や量産移管前の小〜中量生産を行う製造室で、一部既存の危険物貯蔵所を移設することから、製造・実験環境の安全を確保するため、従業員の動線、セキュリティ計画等、施設の使い勝手を向上し、実験内容の変化に追従できる合理的でフレキシブルな建築・設備システムを構築している。		その他 LED照明設備を導入し、省エネルギー化を図っている。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 内外装には必要更新期間の長い材料を採用している。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー 年間熱負荷係数BPI _m =0.55としている。	LR2 資源・マテリアル 主要構造体と仕上材が容易に分別可能な仕様とし、再利用可能な部材を採用に努めた。建築材料に関しては科学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別を4つ以上採用している。	LR3 敷地外環境 照明計画において敷地外へ光害が発生しないように配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される